

第80回日本生物地理学会市民シンポジウム『次世代にどのような社会を贈るのか？』

「人類は戦争をやめることができるか？」

”人新世における人間とは何か”生物学・哲学・社会学からのアプローチ
登壇者略歴（あいうえお順）

内田麻里香（うちだ まりか）

東京大学大学院 総合文化研究科・教養学部附属教養教育高度化機構 科学技術コミュニケーション部門 特任准教授)

東京大学工学部応用化学科卒業、同大学院工学系研究科応用化学専攻修士課程修了。同大学院学際情報学府博士課程単位取得退学。博士（学際情報学）。

専門は科学コミュニケーション、科学技術社会論。特に、科学コミュニケーターとしての経験を踏まえ、理論と実践を架橋する研究に取り組んでいる。柿内賢信記念賞（実践賞）などを受賞。著書に『科学との正しい付き合い方』（ディスカヴァー・トゥエンティワン）、『面白すぎる天才科学者たち』（講談社）など、共編著に『科学コミュニケーション論の展開』（東京大学出版会）などがある。

白井聡（しらい さとし）

京都精華大学・人文学部 人文学科 社会コース 国際文化学部 人文学科 社会専攻 准教授)

1977年、東京生。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻博士後期課程単位修得退学。

博士（社会学）。専攻は政治学・思想史。現在、京都精華大学人文学部准教授。著作に『永続敗戦論』、『国体論』、『武器としての「資本論」』ほか。

辻 瑞樹（つじ みずき）

ペンネーム 辻 和希（つじ かずき）

琉球大学 農学部 亜熱帯農林環境科学科 教授、鹿児島連合大学院連合農学研究科教授：兼任

学歴

名古屋大学農学部 (1980-1984) 学士取得、名古屋大学大学院農学研究科前期(1984-1986) 修士取得、名古屋大学大学院農学研究科後期 (1986-1989) 農学博士号取得、日本学術振興会 特別研究員 (琉球大学農学部) 昆虫生態学(1990-1992)、フンボルト財団ポスドク研究員 (ドイツWürzburg大学) 動物生理行動学(1993-1995年5月)、富山大学 理学部 生物学科 助手 (1995-2001)、琉球大学 農学部 亜熱帯動物学科 助教授 (2001-2005)、琉球大学 農学部 教授 および鹿児島連合大学院連合農学研究科 教授を兼任 (2005-) 琉球大学 農学部 亜熱帯農林環境科学科長 (兼任) (2009-2010, 2020-2021)、琉球大学 大学博物館長(兼任)(2010-2015, 2022-)

その他臨時ポジション、パリ第6大学 招聘客員教授 2001年6月、レーゲンスイブ
ルク大学 招聘客員教授 2017年5月

所属学会等と役職

日本生態学会（理事・将来計画委員長2009-2018）

日本動物行動学会（会長 2019-2022,英文誌編集長2002-2004）

個体群生態学会（会長 2024-2025）

日本進化学会（理事 2015-2021, 2023-）

日本応用動物昆虫学会、

International Union for the Study of Social Insects (日本地区会長 2010-)、

日本学術会議（連携会員 2009-, 行動生物学委員会委員長2015-2020, 2024-）

学外委員

日本学術会議連携会員（2009-）, 賞選考委員（国際生物学賞2010、京都賞 2022）,

環境省外来生物対策委員（2017-）、沖縄県環境影響評価委員、自然保護委員など多

数、Board of OISTのField Research Safety Committee(2017-)、OISTのPIのテニユア

評価委員(twice) and others

賞罰 第3回日本生態学会宮地賞（1999）、第1回日本動物行動学会賞（2010）

代表的な著作

Tsuji 1995 *The American Naturalist* 146 (4), 586-607

Dobata, Tsuji 2013 *PNAS* 110 (40), 16056-16060

Hojo, Pierce, Tsuji 2015. *Current Biology* 25 (17), 2260-2264

Yamamichi et al. 2020. *Trends in Ecology & Evolution* 35 (10), 897-907

P d'Ettorre, Tsuji 2022 *Nature* 612 (7940), 405-406

Kikuchi et al. 2024. *Biology Letters* 20: 20240102

Uematsu et al. 2025. *Ecology*. 2025;106:e70274.

辻 和希2025 『利他と血縁-社会生物学入門』岩波書店

出口康夫（でぐち やすお）

京都大学人と社会の未来研究院特定教授 京都哲学研究所共同代表理事

1962年、大阪市生。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。京都

大学大学院文学研究科哲学専修教授を経て現職。専攻は哲学、特に分析アジア哲

学、数理哲学。現在「WEターン」という新たな価値のシステムを提唱している。

近著に『これからの社会のために哲学ができること 新道徳実在論とWEターン』

（光文社）、『AI親友論』（徳間書店）、*What Can't Be Said: Paradox and*

Contradiction in East Asian Thought (Oxford UP), *Moon Points Back* (Oxford UP), な

ど。

森本あんり（もりもと あん裏）

東京女子大学前学長、国際基督教大学名誉教授

1956年、神奈川県生。国際基督教大学、東京神学大学大学院、プリンストン神学大学博士課程修了 (Ph.D)。国際基督教大学教授 (哲学宗教学)、2002年プリンストン神学大学客員教授、2009年バークレー連合神学大学院客員教授、2012-2020年国際基督教大学学務副学長。2022-2026年東京女子大学学長、日本私立大学連盟常務理事。

専門は神学・宗教学・アメリカ研究。

著書に『アメリカ的理念の身体』 (創文社)、『反知性主義』 (新潮選書)、『異端の時代』 (岩波新書)、『キリスト教でたどるアメリカ史』 (角川文庫)、『不寛容論』 (新潮選書)、『教養を深める』 (PHP新書)、『魂の教育』 (岩波書店) など。

森中 定治 (もりなか さだはる)

1949年、三重県四日市生。生物学者 (農学博士)。日本生物地理学会前会長、綾瀬川を愛する会代表。

趣味：声楽 (テノール)、定年後始め2019年、ウィーン・オペレッタコンクール愛好家シニア部門第1位、2020年東京国際声楽コンクール愛好家シニア部門第2位、2021年第一回ボイスリーグ戦ケン・カタヤマ賞、2022年第1回さいたま国際音楽コンクール一般部門埼玉県知事賞。

民間企業に勤めるも、ライフワークの生物学を生かし、チョウを材料とした分子生物学研究にて、2003年名古屋大学で博士号取得。2003年より日本生物地理学会会長。学会と一般社会をつなぐ試みとして市民シンポジウム「次世代にどのような社会を贈るのか？」を継続して企画実施、人間とは何か、人間社会のあり方について生物学と哲学が深く結びつき、人間の行動 (生き様) の原点をなすことを学んできた。

単著に『プルトニウム消滅！脱原発の新思考』展望社 (2012)。『プルトニウムを解毒し脱原発・脱核兵器への道を切り拓く「生物学」的思考法』電子書籍・22世紀アート (2022)。『*Reimagining Humanity's Future - From the Nuclear Dilemma to Renewable Possibilities*』22nd Century Art Co., Ltd. (2026) 共著に『埼玉蝶の世界』埼玉新聞社 (1984)、『チョウの生物学』東京大学出版会 (2005)、『現代を生きる安藤昌益』お茶の水書房 (2013)、『熱帯アジアのチョウ』北隆館 (2015)、『ふしぎのお話365』誠文堂新光社 (2015) 他。